

衆議院議員

おにき誠

Makoto Oniki

日本医師会名誉会長

横倉義武

Yoshitake Yokokura

特別対談

「新型コロナウイルス対策」おにき誠の5つの実績

1 各種支援金の円滑な支給に尽力

事業と雇用を守るため、無利子無担保融資や納税猶予の実現、雇用調整助成金の拡充、「不備ループ」で問題になった各種支援金の円滑な支給に取り組みました。

2 台湾からの医療資源提供を受ける

日本に医療資源が枯渇した際、おにき誠に対し台湾から福岡に3万枚のマスクや消毒液、体温計の寄附申し出があり、福岡の各所に贈られました。

3 医療機関のワクチン接種コストを予算措置

ワクチン接種を円滑に進める為に、医療機関の接種に関わるコストを予算措置するよう政府に働きかけ、実現しました。そのような取組みにより、開業医でのワクチン接種が進み、福岡市内の対象者約138万5千人の8割が10月末までに2回目の接種を終えるとの見通しがたっています。

4 コロナ療養者も郵便投票できるよう法改正

コロナ療養者も選挙において郵便投票ができるよう議員立法で法改正に取り組み、実現しました。

5 軽症者の病床確保

厚生労働省、福岡県、福岡県医師会と協力し、ホテルでの宿泊療養の推進など病床確保に取り組みました。そこでは重症化を防ぐ抗体カクテル療法が行われはじめています。



国産ワクチン開発における4つの提言

1 新薬買取などの政府支援

日本企業に新薬開発の技術力がないのではなく、政府支援が乏しく投資回収見込がなかったため創薬されなかったことから、各種政府支援を提言しました。

2 医薬安全保障の観点から

新薬創出が遅れると国民の命が守れない事態となります。「医薬安全保障」の観点から、創業支援を提言しました。技術立国・日本の産業政策としても創薬力は重要です。

3 スピードアップ

日本では新薬の治験や承認にたいへん時間がかかることが、コロナのような有事に即応できない一因となっていました。治験環境の支援や、薬事承認のスピードアップを提言しました。

4 万一の被害を国が補償する仕組み

日本では過去、ワクチンを巡る訴訟が頻発したため、製薬メーカーがワクチン開発に及び腰になっていました。万一、重い健康被害が生じた場合に、国が責任をもって被害者を補償することで製薬メーカーの負担を減らすことを提言しました。

コロナに打ち勝つための今後の取り組み

マイナンバー制度活用

マイナンバーと銀行口座を紐付けることで、将来再び給付金の支給が必要になった際にスムーズに行うことができます。また、ワクチンの供給や、健康被害があった時にも国の対応が行き届くようになります。

緊急時に対応できる法整備

我が国の憲法は、個人の権利がしっかり守られています。したがってパンデミックなどの緊急時には、(ロックダウンや水際対策など)国がどこまで強い制限をかけることができるかが課題となっています。憲法上の個人の権利について議論を深めてまいります。

地元「福岡」の皆様の声を国政に届けて参ります！

衆議院議員おにき誠 後援会事務所

〒810-0023 福岡市中央区警固1-12-11  
アーバンスクエア警固2階  
Tel 092-791-7901 / Fax 092-791-7909  
Mail makoto@onikidon.com



討議資料



今を乗り越え、未来を創る。

新型コロナウイルス感染症により、みなさま大変苦しい日々が続いていることと存じます。私は与党自民党の中で、厚労省、医師会、地方自治体と協力しながらコロナ対策に取り組んで参りました。また、事業でお困りの方、暮らしにお困りの方を少しでも多くお助けできるように、各種支援策の策定に取り組んで参りました。しかし長引くコロナに「もう、これ以上は耐えられない！」という多くの悲痛な叫びが届いております。日常生活と経済活動を取り戻すべき時が来ています。コロナの克服と経済の再生に全力で取り組み、「今を乗り越え、未来を創る。」

明るい未来を切り拓いていけるよう頑張っ参ります。

衆議院議員 鬼木 誠



## 各フェーズのコロナ対応から現在のワクチン接種にいたるまで

**鬼木** 日本医師会長として医療界の指揮にあられた横倉先生は、息をつく暇もないほどの大変な日々だったと拝察します。

**横倉** コロナが国内で流行し始めた頃の最初の課題は、マスクなど感染防護具の調達でした。厚生労働大臣に何度も面会して不足品の供給を依頼しました。次にいわゆる「3密」について注意喚起を行いました。各地の医師会や行政との連携は不可欠でしたね。

**鬼木** 一般国民だけでなく、病院でもマスクや体温計が足りないという状況がありました。私は福岡県・医師会・厚労省とやり取りをし、各所にマスク班を作り、世界各国から適正基準のマスク・消毒液を調達し現場に届けました。そんな中、台湾の総領事からマスク3万枚の寄付の申し出をいただき、福岡県内で分配しました。「医療崩壊を防ぎ国民の生命を守る」という使命感のもと、必死に取り組んでいました。

**横倉** その後、軽症者が重症化しなくなる注射薬が開発されたわけですが、ホテル療養の人にも使えるよう県医師会と行政から厚労省に申請してもらいました。次は経口薬があるともっと安心できますし、海外の製薬メーカー2社に申請を出しているところです。国内でも治験の段階までできています。

**鬼木** 重症化しない病気になれば、コロナも一般の病気として扱えるようになりますよね。あとはやはりワクチン接種の普及ですね。私は自民党ワクチン対策プロジェクトチームの一員として速やかなワクチン普及に取り組みました。福岡はこれだけ多くの人口がありながら、スピーディーに対応できていると思います。

**横倉** 私の病院でも毎日100人単位で接種を行っています。接種が遅れると不安から混乱が生じやすくなるため、医療機関の接種と集団接種の2本立てで速やかに進めることが大事だと考えています。



衆議院議員

# おにき誠

Makoto Oniki

Profile [プロフィール]

**鬼木 誠** [おにき まこと]

1972年福岡市生まれ。福岡市立田島小学校、福岡市立当仁中学校、ラ・サール高等学校、九州大学法学部法律学科卒業。西日本銀行(現西日本シティ銀行)に7年間勤務後、2003年より福岡県議会議員(3期10年)。2012年、衆議院議員に初当選し、以後3回当選。

## 日常生活を取り戻すために必要な取り組みと抜本的な解決策

**横倉** コロナは生命への影響だけでなく、経済に大きな打撃を与えます。経済を動かすためには、ワクチン接種を広める、ワクチンパスポートや陰性証明書を用意する等の対応が必要になってくるでしょう。デルタ株の反省として、検疫を厳しくすることも重要です。

**鬼木** 自民党のワクチン対策プロジェクトチームでは、国産ワクチンを作れなかった理由も議論しています。日本は薬を開発することのできる数少ない国の一つです。技術が無くて作れなかったのではなく、投資を回収する仕組みがなかったことが、製薬会社の創業意欲を減退させました。



医療崩壊させてはいけけない、大切な国民の命を失ってはいけけない  
 ということを最優先に動いた。

鬼木

日本医師会名誉会長

# 横倉義武

Yoshitake Yokokura

Profile [プロフィール]

**横倉 義武** [よこくら よしたけ]

1944年福岡市生まれ。1969年 久留米大学医学部卒業。その後医学博士号を取得。福岡県医師会会長や日本医師会会長、日本学校保健会会長、世界医師会会長など会長職を歴任。2019年に生存科学とその関連分野での業績を称えて顕彰される武見記念賞を受賞。2020年日本医師会名誉会長に就任。

**横倉** 日本は昔から創薬力がある国ですが、実際に使用できる臨床薬となる段階で大きな谷間があります。コロナワクチンも東大・阪大等でいち早く開発に取り組みしましたが、資金力がなく製品化に繋がりませんでした。日本の工業力を発揮できる社会作りを鬼木先生にも期待しています。

**鬼木** 国民の命や健康をしっかり守っていただけるよう、日本の創薬を応援したいですね。またマイナンバーを活用できていないのがとても残念です。マイナンバーに一つでも銀行口座が紐づけされていれば、10万円の給付も速やかに対応できたでしょう。もし仮にワクチン接種で健康被害があったとしても、いつどこでどの種類のワクチンを打ったか残っていれば、スムーズな補償が可能になります。

**横倉** 台湾ではマスク支給のためにマイナンバーを活用していました。日本でも物品や補助金等のスピーディーな支援に繋がられるよう普及を進めていくべきでしょう。

**鬼木** 個人情報との紐づけについて懸念する声も多いですが、過不足ないスムーズな行政サービスのために必要な制度です。今後のためにも確実に前進していくことが求められます。



## コロナ問題を通じて思う、困難に直面した際に強い日本であるために求められる変化とは

**横倉** 非常時に適切な医療を提供する仕組み作りのためには、法的な整備も必要です。今回も新型インフルエンザ特措法の改正がありましたが、さらに自治体への国の支援は不可欠です。

**鬼木** 日本の憲法は国民個人の権利がしっかり守られているがゆえに、非常時でも国民に強い制限ができない部分があります。ロックダウンができないのもそのためです。憲法改正も視野に入れた上で、法整備を議論する必要がありますね。

**横倉** 今年、感染症と自然災害に強い社会を作るための提言を行う

「ニューレジリエンスフォーラム」を創設しました。緊急時の医療提供体制、またそのための法的根拠などを論議しています。

**鬼木** 新型コロナよりも感染力が強く致死率が高いパンデミックが、将来いつ訪れるかもわかりません。国民一人ひとりの意識改革とともに立法における議論も進めていきたいです。

**横倉** 創薬やマイナンバー、入国管理もそうですが、法規の見直しが必要な段階に入っています。地域から国民の命を守るために鬼木先生にもご協力をお願いします。日本医師会の会長時代に、ほぼすべての国会議員の方とお会いしてお話をさせていただきましたけど、鬼木先生ほど真面目な代議士は滅多にいない。こういう方に国会で働いていただくことが大事だと思っています。

**鬼木** ありがとうございます。これからも地域医療を支える医師の先生方と一緒に尽力してまいります。本日はありがとうございました。



対談の全編動画は  
こちらから  
ご覧になれます。

一人ひとりが努力すること、同時に法的な整備を進めることが  
 次のパンデミックへの備えになる。

横倉